

## 第 31 回 ISTS 参加報告書

筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻  
博士前期課程 1 年 永田 晃大

愛媛県松山市で 2017 年 6 月 3 日~9 日に行われた第 31 回 ISTS(宇宙技術および科学の国際シンポジウム)へ参加し、研究発表を行った。人工衛星など宇宙機の試験技術に関するセッション「[f-17] Test」において 6 月 9 日に発表を行った。本学会で発表した研究は、「The development of support system for Radiation Resistance Test」という題目であり、民生用部品の宇宙応用を考えた場合に、その放射線耐性などの信頼性を評価する目的で行われる放射線試験をより効率的に行う為の試験支援システムの開発に関する研究である。本研究は、筑波大学システム情報系宇宙開発工学学域が推進している人工衛星プロジェクトである

「結」プロジェクトにおける人工衛星開発の一環として行われてきた活動が基となっている。本研究論文の著者は、永田晃大<sup>1</sup>、保田敦司<sup>2</sup>、渡辺展正<sup>2</sup>、亀田敏弘<sup>3</sup>の 4 名である。

発表を通して、他大学の衛星開発団体や企業の技術者との意見交換が行え、試験技術に関して新たな専門的知識を得たと共に、本学における宇宙開発と他大学、企業、他国で実施されている宇宙開発との比較ができ、国際的な視野を広げる事が出来たと考える。また、発表準備を通して、自身がこれまで行ってきた小型人工衛星の開発や研究の社会的意義について改めて考え、見つめ直す機会となり、今後行われるべき宇宙開発の方向性について個人的に考える機会となった。

今回の ISTS 参加では、初めての国際学会という事もあり、得るものが多く、非常に貴重な経験ができたと考える。今回の経験を今後の研究活動や小型人工衛星の開発に活かして行きたいと考える。



図 1 発表時の様子

<sup>1</sup> 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻

<sup>2</sup> 筑波大学大学院 数理物質科学研究科 物理学専攻

<sup>3</sup> 筑波大学システム情報系 構造エネルギー工学域